

# 富士山！万歳！！

8月20日（日）～8月23日（水）

IN 国立中央青少年交流の家～赤岩八合館

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	施設に到着	作戦会議
2日目	荷造り・出発	富士登山	山荘到着
3日目	山頂出発・下山開始	施設到着・片付け	振り返り
4日目	施設清掃・施設を出発	施設見学・解散	

**一日目：** おはようございます！！夏の日差しがまだまだ照り付ける中、最大のチャレンジを目指すメンバーが集まりました。関西から静岡まで長い旅が始まります。施設まで向かう道中で一緒に登る友達と仲を深めるために、自己紹介から沢山話をしました。休憩ごとに席替えをして、様々な仲間と話をさせていただきました。施設には夕方頃に到着し、施設からのオリエンテーションを受け、夕食を食堂で済まし、富士山登頂に向けた作戦会議を行いました。登山の心得や現地の環境について、それに対して何が必要なのか、服装はどうなのかを富士登山経験者から話を聞きました。そこから、自身のリュックにどう詰めようか、何を着ていこうかを考えていただきました。登山がもうそこまで迫っており、メンバーから緊張感が出ておりました。明日は富士登山本番です。早めに寝て、しっかり備えましょう。



**二日目：** 朝から緊張が走っておりました。昨日に比べて口数は少なく、皆の意気込みを十分感じることが出来ました。朝食を済ませると、荷物の詰め込みの最終確認です。重心は上にあるか、左右のバランスはとれているか、すぐに出したいものは手前にあるかをリーダーにチェックを受けました。皆の荷物がクリアしたのでついに出発です。マイクロバスで麓の【水ヶ塚公園】に向かい、そこからシャトルバスにて富士宮五合目に向かいました。五合目で既に標高2400mありますので、昼食時間を兼ねて、体を高度に慣らしました。「呼吸がしづらい。」や、「空気が薄い。」と仰ってる方もおられました。時間がきたので、自分達で考えた隊列を組み、登り歩きました。六合目までは、意気揚々と登られていましたが、七合目付近になると徐々に足取りが重くなる方が増えてきました。そうした時は、メンバー同士で声を掛け、時には背中を押し、『皆で登る』意識を途絶えさせず、登り続けました。メンバーから「荷物持とうか？」と自然と声を掛けられる素敵な姿が伺えました。富士宮ルートを一合目まで上がり、そこから御殿場ルートに移動するルートで向かいました。八合目では、体力の限界を迎えている方もおられ、ギリギリのところまで登っておりますが、心を折れさせないよう、想いを途絶えさせないよう、皆で一丸となり歩きました。そしてついに、本日の宿場“赤岩八合館”に到着しました。その時の達成感と笑顔は最高の輝きを見せていました。夕食のカレーをいただき、翌夜に山頂へ向かう準備を行いました。何が必要かをこちらから言うまでもなく、ご自身で防寒や備品について考えて、詰め込まれていました。寝付きにくいかもしれませんが、体を休めて、体力を回復させましょう。



**三日目：** 本当に長い一日の始まりです。夜1時30分に起き、健康チェックをした後、山頂へ向かう準備を進めました。皆から不安と緊張を感じられましたが、富士山から見える最高の夜景が気分を紛らわし、挑戦する強い気持ちで覚悟を決められたようでした。山頂までは暗い中を歩くので、ヘッドライトをしながら日中よりもゆっくりなペースで登っていきます。途中休憩を挟みつつ二時間ほど歩くと、山頂の【鳥居】が見えてきました。また空も明るくなってきて、ご来光の時間が迫ってきております。無事、ご来光前に山頂に着く事が出来、ご来光スポットへ向かいました。ようやく一息が付けるので、この時に眠気と疲れが一気に襲ってきてウトウトとしてしまいます。空がオレンジ色に変わり、そしてついに雲の合間から太陽が顔を出しました。メンバーも周りの方も会話を止め、誰もがこの時を静かに見ていました。誰もがこの光景に感動していました。太陽が昇りきると、次は日本最高峰【剣ヶ峰】へ向かいました。ご来光スポットよりももう少し高い位置にあるので、まだ登らないといけません。最後の力を振り絞り、剣ヶ峰に登頂出来ました。ここが『日本で一番高いところ』で、碑に立った時、誰よりも一番高い位置におります。その達成感を本当に嬉しそうにされていました。山頂の山荘でお土産を購入し、ここから今日中に五合目まで下ります。既に疲労困憊な様子ですが、ここで怪我をしたら元も子もないので最大限に気を付けて帰ります。途中、赤岩八合館にて朝食をいただき、一時間ほど休憩をしました。この時の朝食の味は絶対に忘れないと思います。休憩を終え、荷物を詰め込み、山荘の方々に御礼とお別れを告げ、富士宮五合目に向けて出発しました。帰りは登りと違い、富士山の最大ショートカット【大砂走り】があります。二時間以上かけて登るところをたった30分で駆け降りられるので、下りはあっという間です。大砂走りでは、皆楽しそうに走り降りていました。何人が転けた方もおりましたが、それでも楽しそうに駆け降りていました。帰りは“宝永山”経由の【プリンスルート】で帰りました。帰りはずっと下りなので、八合目でしんどそうにされていた方も降りていくごとに元気を取り戻され、笑顔で友達と談笑しながら下っております。そしてついに、五合目に帰ってきました。この時の嬉しそうな表情は最高に輝いており、安堵感が非常に滲み出ておりました。五合目から麓までのシャトルバスでは、リーダーもメンバーも皆、休んでいました。施設に戻ると、片付けと夕食、入浴を済ませ、体も心もスッキリさせました。夜は振り返りとして、初日から今日までの写真を皆で見返しました。つい昨日の出来事が、大分前の事のように感じました。そして一人一人、富士登山をした感想を述べてもらいました。事前にお題は伝えておりましたので、丁寧にご自身の言葉で想いを伝えていただきました。就寝となり布団に入るとすぐに熟睡されました。本当に長い一日、お疲れ様でした。



**四日目：** 朝の放送が聞こえるまで、誰一人起きることはなく、皆同時に起床しました。朝早くから施設を出発するので、朝食を挟み、お世話になった施設を隅々まで清掃しました。施設に御礼を伝え、出発しました。途中のSAにてお土産を購入しました。帰りを待つ方に、頑張った自分のご褒美に選ばれていました。今



回、頑張った皆へご褒美として名古屋の【リニア鉄道館】へ向かいました。過去・未来の鉄道が並べられており、様々な体験も出来ました。また仕組みや鉄道内の見学をすることも出来、あつという間の充実した時間を過ごせました。鉄道館を後にし、京都に近付いてきました。今回、一緒に登った仲間ともお別れの時を迎えます。京都に到着し、全体解散した後、友達同士で握手を交わしたり、ハグをしたりし、別れを惜しみました。「また会おう。」と約束をする様子も伺えました。尼崎でも各々帰る前に写真を撮って記念にされており、メンバー間での仲間意識の深さを改めて感じる事が出来ました。



## <キャンプ総括>

今年も無事にご来光を見ることが出来ました。今年も昨年のように、私は少し離れたところから、皆の頑張りを見届ける形としました。キャンプには二つのパターンがあると考えております。一つはリーダーが皆をグイグイ引っ張っていき、リーダーのペースで進めるキャンプです。もう一つはメンバーが自分達でペースを作り、動いていくキャンプです。どちらも一長一短であり、キャンプの内容に応じて使い分ける必要があります。富士登山はハイブリッドで、どちらの特性も必要です。なぜならば、リーダーもメンバーも富士山のもとでは同じ立場だからです。時にはメンバーの方が逞しく感じる時があります。リーダーがメンバーの力で引っ張ってもらう時があります。ゆえに『一丸』となって臨むのが【富士山】です。年に一度、我々リーダーの役割や立場、メンバーの力強さを再認識させてくれる大切なキャンプです。ゆえに、来年もまた登ります。今年チャレンジされた皆さん、本当にお疲れ様でした。そしておめでとう!! (竹中 哲郎)